

2007年7月24日  
博報堂エルダービジネス推進室

## HOPEレポートXXV 団塊リタイア調査③「夫婦の関係」

**団塊男女は共に「定年後は夫婦仲良く暮らしたい」が圧倒的。****団塊夫婦に「歩み寄り」の兆し。一方で、まだまだ残るすれ違い。**

- ・ 男性は、「料理をしたい」が3割、始めたい習い事1位も「料理教室」
- ・ 「夫婦で話し合いをした」スコア、男性よりも約15ポイント低い女性

博報堂エルダービジネス推進室では、50歳以上のエルダー生活者について、常時さまざまな調査・研究を実施しております。このたび、2007年4月から始まった「団塊のリタイア」に焦点を合わせ、首都圏及び関西圏の58～60歳（428名）の調査結果を中心に「夫婦の関係」と「携帯電話・PHSの使用」について分析した結果をまとめましたので、ご報告いたします。

調査結果によれば、定年を迎えて、約8割の団塊男女が「夫婦仲良く暮らしたい」と考えていることがわかりました。次いで、男性は「趣味をやりたい（72.4%）」、女性は「配偶者にも家事全般に協力してほしい（58.8%）」とっていました。しかしながら、約3割の男性が「料理をしたい」、「自分も家事（料理以外）をしたい」と考えていることから、少しずつ、夫婦に歩み寄りの傾向がでてきたようです。

定年をきっかけに始めたい（始めた）習い事としては、男性のトップ3は「料理教室」「語学」「園芸」で、女性は「パソコン」「スポーツ教室・レッスン」「語学」でした。ここでも、料理をきっかけとする夫の妻への歩み寄りの姿勢が伺われます。

このように、気持ちとしては配偶者に気遣いを始めている団塊男性ですが、実際の行動においては、まだまだすれ違いもありそうです。定年を迎えるにあたり、男女ともに約4割が今までよりも配偶者のことを考えるようになったにもかかわらず、夫婦で話し合いをしたかどうかについては、62.4%の男性が「話し合いあり」と答えたのに対し、女性は48.6%にとどまりました。夫が思うほど、妻にはその気遣いが伝わっていないのかもしれませんが、今後、夫婦仲良く暮らすためには、気持ちと行動のギャップが課題として残っているようです。

また今回の調査で、団塊世代の9割近くが、携帯電話／PHSを使用しており、使用機能としても、「通話」と並んで9割以上が「メール」を活用していました。団塊世代にとって、携帯電話／PHSは、もはや必需品と言えそうです。また、今後使ってみたい機能としては、「テレビ放送の受信」や「テレビ電話」が上位に浮上しています。さらに、「位置情報サービス」などにも興味を持っていました。

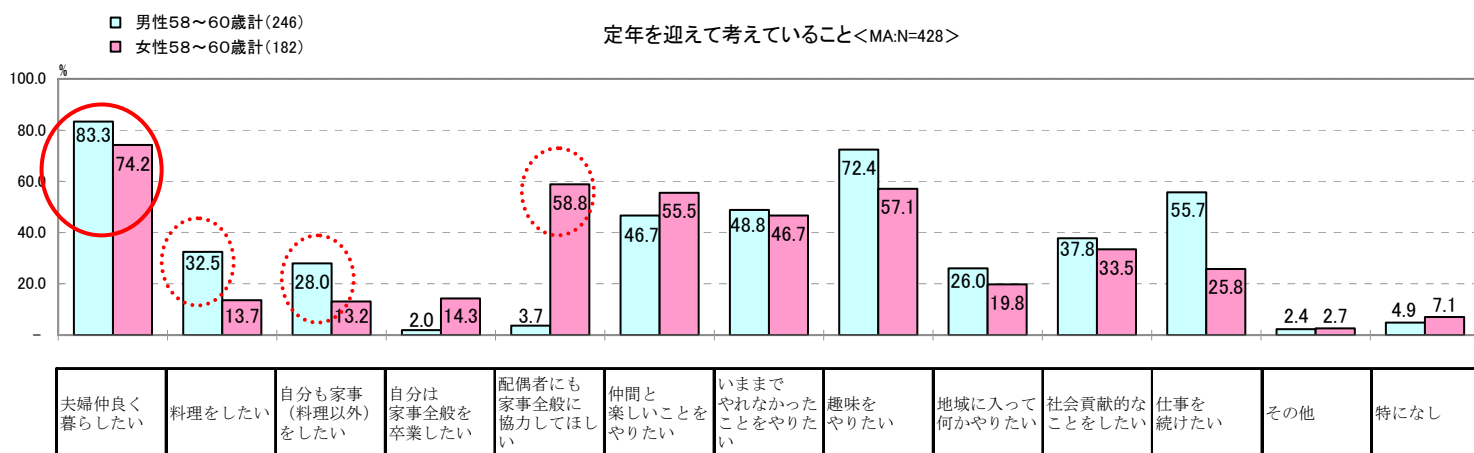
次ページ以降で、詳細の調査データを紹介いたします。

調査概要 調査時期：2007年3月  
調査地域：東京40km圏および大阪/京都/神戸  
調査対象：団塊世代（57才～61才）男性298名、女性286名 計584名  
調査方法：インターネット調査

## 添付資料：調査データ

- ◇ 定年後の生活として考えていることのトップは、男女共に「夫婦仲良く暮らしたい」が約8割。次いで、妻は「配偶者にも家事全般に協力してほしい」。夫は、「趣味をやりたい」が高いが、「料理をしたい」「料理以外の家事をしたい」も約3割。団塊夫婦に「歩み寄り」の兆し？

団塊世代に定年を迎えて考えていることを尋ねたところ、男女ともに「夫婦仲良く暮らしたい」がトップでした。そして、男性は「趣味をやりたい (72.4%)」、女性は「配偶者にも家事全般に協力してほしい (58.8%)」が続いています。一方で、約3割の男性が「料理をしたい」、「自分も家事 (料理以外) をしたい」と思っているところを見ると、定年を迎えた団塊夫婦にそろそろ「歩み寄り」の兆しが現れ始めたといえそうです。



- ◇ 団塊男性が「定年後に始めたい (始めた)」習い事のトップは「料理 (19.9%)」。団塊女性は「パソコン (22.5%)」。

「定年後に始めたい (始めた)」習い事のトップ3は、男性は「料理教室 (19.9%)」「語学 (19.5%)」「園芸 (19.5%)」で、女性は「パソコン (22.5%)」「スポーツ教室・レッスン (21.4%)」「語学 (20.9%)」でした。ここでも、男性の「料理」に対する関心の強さが注目されます。また「語学」「園芸」「スポーツ」などは男女ともに関心が高い習い事であることから、共通の趣味として、会話や共に行動するきっかけとなりそうです。

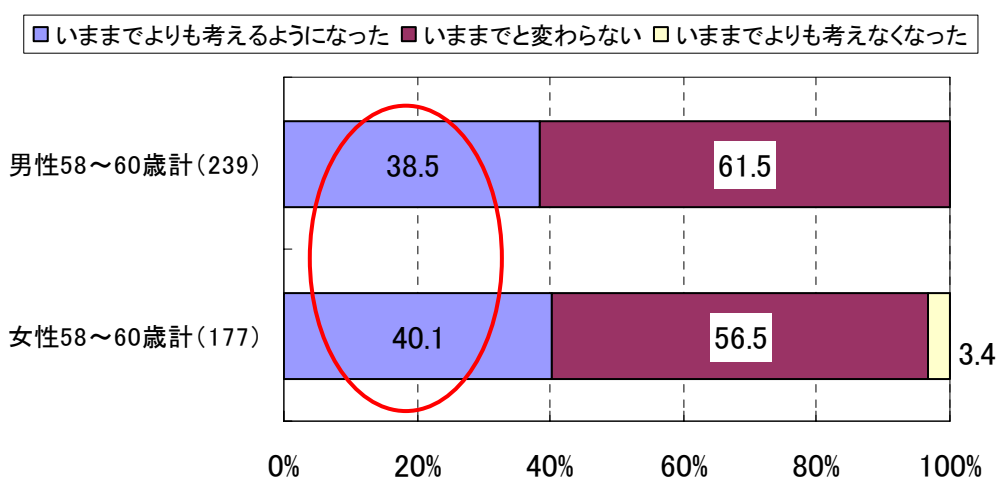
男性58～60歳計 (246)	%
1 料理教室	19.9
2 語学	19.5
2 園芸	19.5
4 パソコン	18.7
5 楽器教室	18.3
6 スポーツ教室・レッスン	17.9
7 スポーツジム	14.6
8 投資講座	13.8
9 写真	12.2
9 絵画	12.2
9 陶芸	12.2

女性58～60歳計 (182)	%
1 パソコン	22.5
2 スポーツ教室・レッスン	21.4
3 語学	20.9
4 園芸	19.8
5 書道／ボールペン字	17.6
6 スポーツジム	15.4
7 陶芸	12.1
8 楽器教室	11.5
8 編み物／手芸	11.5
10 絵画	11.0

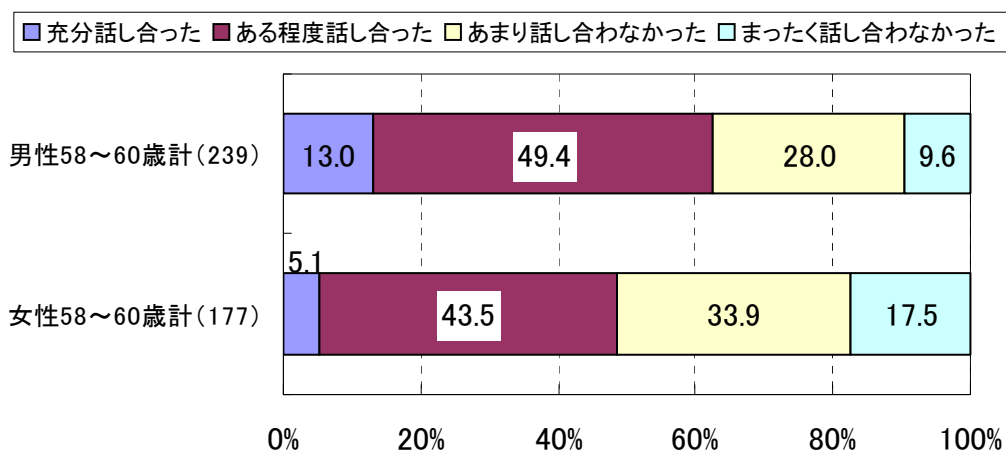
- ◇ 定年を迎えるにあたり、団塊男女ともに約4割が「配偶者のことをいままでよりも考えるようになった」。けれども、「夫婦で話し合った」と考える男性が約6割に対し、女性は約5割。「歩み寄りたい」気持ちに伴っていない、団塊夫婦のすれ違い行動。

定年を迎えるにあたって、団塊男女ともに約4割が「配偶者のことをいままでよりも考えるようになった」にもかかわらず、男性の62.4%が「夫婦で話し合いをした」と考えているのに対して、女性は48.6%にとどまりました。お互いに歩み寄りたいという気持ちは一緒でも、まだまだ行動面でのギャップが残っているようです。

### 定年退職に向けた、配偶者への配慮

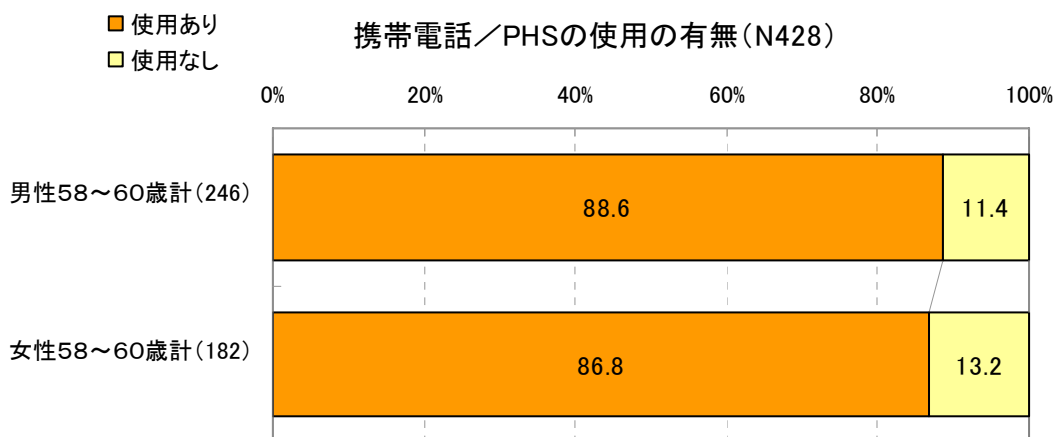


### 定年退職に向けて、夫婦で話し合いをしたか



- ◇ 団塊男女の携帯電話／PHS使用率は9割。「通話」と並んで、9割以上が「メール」を活用。今後は、「テレビ放送の受信」や「テレビ電話」、「位置情報サービス」などに興味あり。

団塊世代は、約9割が携帯電話／PHSを使用しており、特に、女性は通話以外のいろいろな機能を使いこなしていることがわかりました。団塊女性が使用している機能としては、トップの「通話」と並んで9割以上が「メール」を活用しています。また、8割以上の方が「写真撮影」も行っているようです。尚、男女共に今後使ってみたい機能としては、「テレビ放送の受信」や、「位置情報サービス」なども2～3割の使用意向がありました。



### <携帯電話／PHSの使用機能（使用者）>

男性58～60歳計（N=218）

1 通話	97.7
2 メール	92.2
3 写真撮影	72.5
4 写真添付可能な電子メール	36.2
4 iモード等の情報コンテンツサービス	36.2
6 メモリーカード	29.8
7 動画撮影機能	24.8
8 ゲーム	18.8
9 PDA/スケジュール管理	16.5
10 赤外線情報機能	16.1

女性58～60歳計（N=158）

1 メール	96.8
2 通話	95.6
3 写真撮影	84.8
4 写真添付可能な電子メール	57.0
5 動画撮影機能	38.6
6 iモード等の情報コンテンツサービス	36.7
7 メモリーカード	25.3
8 動画添付可能な電子メール	24.7
9 着うた	22.2
10 PDA/スケジュール管理	21.5

### <掲載電話／PHSの使用意向機能（使用意向者）>

男性58～60歳計（223）

1 通話	90.1
2 メール	83.9
3 写真撮影	61.4
4 写真添付可能な電子メール	35.0
5 テレビ放送の受信	31.8
6 iモード等の情報コンテンツサービス	30.9
7 メモリーカード	30.5
8 動画撮影機能	24.7
9 位置情報が得られるサービス（GPS機能）	23.3
9 モバイルSuica	23.3

女性58～60歳計（164）

1 通話	95.1
2 メール	92.7
3 写真撮影	82.9
4 写真添付可能な電子メール	59.8
5 動画撮影機能	38.4
6 テレビ電話	33.5
7 相手の居場所（地図）をメールで確認できるサービス	31.1
8 位置情報が得られるサービス（GPS機能）	30.5
8 道案内してくれる位置情報サービス	30.5
10 テレビ放送の受信	28.0

<調査分析の視点>

博報堂エルダービジネス推進室では、団塊の世代が1960年代後半に若者文化を創ったときを「団塊のファーストウェーブ」と呼んでいます。このときに、初めて世の中に登場したのが、「男の長髪」「ミニスカート」「ジーンズ」です。また、1980年前後にニューファミリー・スニーカーモデルと呼ばれて消費をリードしたときを「団塊のセカンドウェーブ」としています。このときに、初めて世の中に登場したのが「ワゴン車」です。この2007年からはじまる団塊世代の大量退職で、「団塊のサードウェーブ」が起こる可能性があります。それは、これまで2回の波がいずれも「私生活」に関することによる社会現象であり、リタイアは基本的には「私生活中心」の生活に入るからです。（詳細は「団塊サードウェーブ」2006年弘文堂刊）

彼らは、これまでの2回の波の際、いま述べたような世の中にそれまでにない新しい現象を起こし、次の時代の新しい文化・消費を生み出してきました。今回の団塊リタイアに際しても、次の時代の流れになるような「新しい社会現象」が起こる可能性があります。調査からは、これまでの一般的なリタイア後の高齢者イメージとは異なる意識やライフスタイルが見えてきました。そこから、新たな「社会現象」になるような兆候をできるだけ取上げてみました。こうした分析から「団塊サードウェーブ」が起こる兆が多少見えてきたような気がします。本当にそれらが大きな流れになるかどうか、われわれも今後注目して行きたいと思います。

本件に関するお問い合わせ

博報堂 広報室  
エルダービジネス推進室

平澤・宮川 Tel : 03-5446-6161  
阪本 Tel : 03-5446-4355

## ご参考

### ■エルダーの規定（博報堂エルダービジネス推進室による）

50歳以上の高齢者を「エルダー」と規定	
導入期	50～64歳
本格期（高齢者）	65歳以上
前期高齢者	65～74歳
後期高齢者	75歳以上

### ■これまで発行したHOPEレポート

- HOPE レポートⅠ ニューエルダーの登場 (2001年5月・既報)  
・ニューエルダーの登場 エルダー世代関係づくりのキーワードは「情報縁」
- HOPE レポートⅡ 情報縁：つながる場 (2001年7月・既報)  
・ユニバーサルデザイン
- HOPE レポートⅢ 情報縁：つながる関係 (2001年8月・既報)  
・エルダーの人間関係
- HOPE レポートⅣ 情報縁：3世代コミュニケーション (2001年9月・既報)  
エルダーの「子供」「孫」とのコミュニケーション
- HOPE レポートⅤ 「エルダー層のお金に対する意識調査」 (2001年11月・既報)
- HOPE レポートⅥ つながるメディア「ラジオとエルダー」 (2001年11月・既報)
- HOPE レポートⅦ 「エルダーと旅」 (2002年3月・既報)
- HOPE レポートⅧ 「50代調査速報」 (2002年7月・既報)
- HOPE レポートⅨ 「HOPE サーベイ速報：エルダーとパソコン・携帯電話」 (2002年10月・既報)
- HOPE レポートⅩ 「50代60代1600名のお金に関する意識データ」 (2003年3月・既報)
- HOPE レポート増刊『新しい大人文化』創造のヒント『開け ひま』 (2003年10月・既報)
- HOPE レポートⅩⅠ 「50代夫婦のパートナー評価」 (2003年12月・既報)
- HOPE レポートⅩⅡ 「エルダーの食生活調査」 (2004年2月・既報)
- HOPE レポートⅩⅢ 「エルダーと健康調査」 (2004年4月・既報)
- HOPE レポートⅩⅣ 「3世代（ジェネレーション）クロス調査」 (2004年7月・既報)
- HOPE レポートⅩⅤ 「団塊夫婦の定年意識に関する調査」 (2004年9月・既報)
- HOPE レポートⅩⅥ 「団塊世代のエンタテインメント実態調査」 (2005年4月・既報)
- HOPE レポートⅩⅦ 「団塊世代のファッション実態調査」 (2005年7月・既報)
- HOPE レポートⅩⅧ 「エルダーの情報縁とタッチポイント」 (2005年9月・既報)
- HOPE レポートⅩⅨ 「団塊世代～定年（引退）後のライフスタイル調査」 (2005年10月・既報)
- HOPE レポートⅩⅩ 「団塊男性～定年後に目指す男のロマン実態調査」 (2006年5月・既報)
- HOPE レポートⅩⅩⅠ 「HOPE サーベイ 団塊世代 人生60年の棚卸し」 (2006年12月・既報)
- HOPE レポートⅩⅩⅡ 「団塊世代 60歳以降の人生設計」 (2007年2月・既報)
- HOPE レポートⅩⅩⅢ 「団塊リタイア調査①退職金の使い方」 (2007年4月・既報)
- HOPE レポートⅩⅩⅣ 「団塊リタイア調査②今後の生活と暮らし方」 (2007年6月・既報)
- HOPE レポートⅩⅩⅤ 「団塊リタイア調査③夫婦の関係」 (今回)

\* このニュースリリースは高齢者も読みやすい11ポイント以上の文字を使用しています。

(11ポイントは、これ以上小さくなると読みにくくなる限度です)